

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とホールに理念を掲げ、月1回の会議時に、職員皆で唱和している	基本理念が玄関、ホール、会議室にわかりやすく掲示されている。ユニット会議では職員全員で理念を唱和し理解を深め、具体的な支援の実践に活かしている。理念にそぐわない言動がある場合には管理者が対応しているが、今のところそのようなことは見られないという。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の高齢者の集まりや、敬老会にも参加させていただいたり、畑の作物の差し入れもある。防火訓練にも参加していただいたことがある。ご近所にAEDの貸し出しもはじめた。	法人として区費を納めて地域の行事にも積極的に参加している。年4回開催される高齢者の集い「鉢伏会」や敬老会で交流を深め、地区文化祭では「きんもくせいコーナー」が設けられ利用者の作品を展示させていただいている。手芸講師やベリーダンス等のボランティアの来訪があったり、近隣からの野菜の差し入れもあり交流が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われる行事に、利用者と参加させていただき、交流を持っている。運営会議の勉強会に、ご近所の方たちも参加していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ハヤリハット、事故報告など、細かく報告しており、会議出席者の意見もお聞きして、ホーム運営に、生かしている。	利用者、家族、民生委員、区長、地区分館長、消防団員、地主、市職員、警察署職員等のメンバーが集い2ヶ月に1回、奇数月の下旬に開催されている。運営・利用者状況、活動内容、事故などの報告を行い、ホームの実情を把握・理解していただきご意見を頂いている。また、勉強会も実施しその時の講師に会議のメンバーとして加わっていただくこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告など密に連絡し、認定更新時には、担当者へ利用者の暮らしぶりなどを伝え、連携を深めている。	空き状況について市福祉事業のネットワーク「福祉の森」に掲載させていただいている。また、市の主催する介護事業者連絡会で情報交換している。認定更新の機会には市担当者との連携も深めている。介護相談員が2～3ヶ月に1回来訪し利用者の話相手になっていただき、書面での報告が届き、その意見を参考にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関の施錠は、ほとんど行っていない。	「めざすのはごく普通の生活」というホームの思いに沿って、拘束をしないケアを心がけている。玄関は施錠せずにセンサーで対応している。外出傾向の強い利用者は今のところいないが、見守りと言葉掛けで対応している。日課の散歩に出かけることが良い気分転換となり、自由な暮らしを支えている。身体拘束についてはユニット会議等でしないことを前提とし職員間の意識統一を図っている。	

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体的、心理的虐待の話は、スタッフ会議では、話している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ほぼスタッフ全員の会議で勉強を行った		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの報告、モニタリング等のお話の場や、面会時など、御家族の意見をお聞きし、スタッフ会議や運営会議で報告している。	利用者のほとんどが自分の意見を表現できている。家族の来訪は週1回から2~3ヶ月に1回など様々だが、受診の付き添いや誕生会参加の折に様子を伝えたり意見や要望を伺って支援に活かしている。家族の力をお借りして、本人の気持ちを受け止め支援に活かす場面もあるという。写真入りの便りを定期的に送り家族に利用者の最新の様子を伝えるように配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ほぼ月1回会議を開き、意見を聞くようにしている。	ユニット会議をほぼ月1回行い、利用者の状況報告、ヒヤリハット・事故報告などを行い、課題について意見交換をしている。欠席者は議事録で確認している。管理者が日頃、職員の要望や意見を聞くように心がけており、職員同士でも話しやすい雰囲気があるという。年2回、管理者による個人面談が行われ処遇改善に反映されている。子育て中の職員は子連れ出勤を可能にもらうことで仕事が続けられ、利用者も含め周囲も応援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	気分転換できる休憩室を確保したり、スタッフの話聞くように、している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受けたり、内部研修を行ったりしている。		

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力していただいている他のグループホームはあるが、スタッフ同士の交流は行われていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族から、サービス利用について相談を受けた場合、必ずご本人と面談させていただき、ご本人を理解しようと努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までのご家族の苦労や困っていることなどお聞きして、次の段階の相談につなげている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思い、状況を確認し、必要なサービスにつなげる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に得意分野で力を発揮していただき、感謝するという関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、誕生会に出席していただいたり、基本、受診は、ご家族にお願いしている。ボランティアに来て下さるご家族もいらっしゃる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親戚、友人などが面会にいらしたら、また来ていただけるよう声かけしている。	友人・知人の来訪があり、利用者が大切にしてきた関係が継続できる環境にある。居室で談笑されるのでお茶をお出しし、家にいるのと同じようにしている。ホームの隣家が馴染みの美容院で男性も女性も整容していただき、お気に入りの場所となっている。利用者同士互いの居室を行き来して楽しめることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶や食事の時間は、スタッフも一緒に多くの会話をもつようにしたり、トラブルになった時は、個別に話を聞いて、スタッフが調整役となっている。		

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所なさった利用者の所にスタッフが訪問して様子を伺ったり、御本人、家族を激励している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護記録、日々、お話して会話していく中からの気づき、アセスメントを通じ本人の思いの把握に努めている。	ほとんどの利用者は自分の思いを伝えることができる。日常の関わり・会話や記録から何を望まれているかを把握している。入浴時は特に本人の気持ちを聞くことができるので、その時の話を申し送り時に伝え職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、これまでの暮らし方を把握し、新しいことの挑戦でなく、日々の中から、馴染みの暮らし方を継続する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護、看護記録、支援内容確認書から一人一人の状態を把握している。その人に合った対応をするように努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人は勿論、家族の意向を聴取し、管理者、介護員の意見を反映させた介護計画の作成に努めている。新しい計画より継続できる計画を考えるようにしている。	担当制をとっており、職員1人が1人の利用者を担当し、適宜、交代している。日々接する職員が利用者の様子を業務日報に細かく記録し、管理者やケアマネージャーも状況を把握して3~6ヶ月に1回モニタリングを行っている。家族の意向も確認しながら現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々体調を観察し、支援の結果を介護記録に記録、支援の見直し、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地区のミニデイサービスに参加し、市民が活用している大浴場(外湯)に入浴した利用者もいた。		

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館の利用や地区の敬老会、年4回、地区のミニデイサービスに参加し、地区住民と交流を図っている。又、地区の文化祭にも出品し、施設の存在をピーアールしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の理解のもと、かかりつけ医、協力医に受診、往診をうけている。現在3人の医師が往診している。	利用前からの主治医を継続している方は3名で、家族付き添いの受診と往診で対応している。他の利用者は協力医による月1回の往診で、適切な医療を受けられる体制が整っている。ケアマネージャーが看護師でもあり健康チェックが定期的に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な変化を見逃さない様早期発見に取り組んでいる。気が付いたことがあれば、看護師に報告し、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報を医療機関に提供し、退院時には、早期に出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を提出し、限定付きですが、看取りを始めます。研修も行いましたが、日々勉強が必要です。	ホームとしては本人や家族の意向をふまえて看取りを行うことにしている。重度化に伴う「看取り」指針も作成し、ホームとしての話し合いを積み重ねている。協力医や訪問看護師による24時間対応などについても話し合いをしている。今まで看取りの経験はないが、予期せぬ状況でお亡くなりになられた方がおりそのことが良い経験となりホーム全体で体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網は、整備されている。ほぼスタッフ全員が普通救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	以前、夜間を想定した訓練を実施し、地域の消防団や、近隣住民も訓練に参加した。毎月1日に避難訓練を行っている。	消防署指導の下、年1回防災訓練を実施している。半年に1回消防設備の点検を受けている。夜間想定避難訓練は消防団員も参加し行い、その際、近隣住民にも参加していただき避難してきた利用者の見守りをしていただいた。また、毎月1日にホーム独自の避難訓練を実施し、通報、消火、避難誘導の訓練を行っている。	

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者の人格の尊重とプライバシーの確保を心掛けている。特にプライドの高い方や、男性利用者への言葉がけには気を配っている。	利用者には苗字に「さん」を付け、同姓の方には名前に「さん」付けでお呼びしている。プライバシー保護や人格尊重に関しては職員も理解し支援に努めている。利用者の中には自分の思いを強く主張される方もおられるが、気持ちを受けとめるように気を配り、また、さり気ないケアを心がけ、言葉がけにも留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り希望に添える様、配慮している。表出のない方は、選択肢を提示して自己決定を促している。利用者の相談など、気軽に話せるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	定番のリズムに沿って支援してしまっている面はあるが、希望がある場合は、無理強いせず、希望に耳を傾ける様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で整容が難しい方の支援を怠らないよう心掛けている。「似合いますね。素敵ですね。」など利用者が喜んで笑顔になれるよう言葉をかけ、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に出来る仕事をお願いして、役立つことの喜びを感じて頂き、利用者とスタッフが、一緒に楽しく食事している。一人一人の食量や好き嫌いに配慮している。咳込み、飲み込みなども注意している。	自力で普通食を摂る方が大半で、全介助でミキサー食やとろみ剤を使用する方が若干名おられる。手伝いができる方も多く、一人ひとりの「できること」を把握しお願いしている。ホームの家庭菜園から収穫される野菜や近所からの差し入れも多く、それらが食卓に並べられ楽しい食事時間となっている。誕生日会のケーキ、漬け物、おせち料理などは管理者が中心となり手作りをして喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	無理強いににならない程度に、食べ残しの摂取を促したり、水分摂取の促しをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夜間の義歯の洗浄や介助が必要な方は、口腔ケアは行っているが、ご自分で歯を磨かれている方は、声かけにとどまっている。		

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをつかみ、なるべく排泄の自立にむけ支援している。家族の金銭的な負担を減らすためリハビリパンツの代わりに洗い替え出来るパンツを使っている人もいる。夜間は使用パンツの計測もし、無駄のないパット使用に心掛けている。	自力でできる方は若干名で、ほとんどの利用者は一部介助が必要となっている。排泄チェック表を活用して声をかけ、トイレ誘導することで自立に向けた支援が行われている。夜間のパット計測を行い無駄のないパット使用に努めている。本人・家族と相談しながら一人ひとりに合わせた排泄用品を工夫しており、今までリハビリパンツを使用していた方が洗い替えできるサポートパンツに変えてみる等の支援もやっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操と散歩、水分補給の徹底、野菜や果物も摂取するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のスケジュールはあるが、その中で時間帯等は希望を聞いている。入浴中、後も笑顔で喜んで頂ける様、会話にも配慮している。	基本的に週2回入浴している。2名の方がリフト浴であとの方は一部介助が必要となっている。シャワー浴だけでなく全員、湯船に浸かっていただきたいという職員の思いでリフト浴が導入されている。湯に浸かることでほっとしたり温まったりと喜ばれている。服をとられると思い入浴を拒否する方がいるが、その原因を探り対策として、わかりやすく注意書きのポスターを掲示するなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活を心がけ、生活のリズムを整える様努めている。リネン交換も定期的に行い、布団干しも行っている。眠れない利用者には、飲み物等出し、ゆっくり話を聞いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が薬の内容や副作用までは理解していないが、誤薬がないよう注意し、服薬時は、飲み込むまで確認している。薬の変更時は、特に、確認を怠らない様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション(歌、トランプ、かるた、しりとり、塗り絵、ボール投げなど)や食事の手伝い、洗濯物たたみなどしていただいている。干し柿作りも行った。縫い物や書写、俳句作り等得意な事も行える様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お散歩、ドライブなど行っている。地域の行事なども、参加を心がけている。ブドウ狩りの帰りに道の駅に寄って外食もした。	毎日、30分間の散歩が外出の基本となっている。近所にバラのきれいなお宅があり、そこまで出かけていくことで体づくりと気分転換を図っている。近所の方が休憩用の椅子を用意して頂いているとのことで、地域の人々の高齢者を思いやる温かい気持ちを感じられる。花見、紫陽花などの見学、秋にはケアマナージャーが管理しているブドウ園に行ってぶどう狩りも楽しんでいる。2名の方が車いすであるが、一緒に出掛け楽しまれている。	

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は家族から預かり、必要なものが買えるよう支援はしているが、本人が使えるようには支援出来ていない。買い物支援は少ないが出かけた時は、希望の物を購入している。その時は、ご本人にお金を払っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日常的に電話はしていただいている。ただし、家族の迷惑にならない時間帯にしている。毎年、年賀状は、家族宛に書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに花を置いたり、壁には、季節ごとの飾りつけをしている。温度や湿度にも配慮している。	食堂兼ホールは広々として開放感がある。床暖とシーリングファンが設置されている。大きな窓の外には広々としたテラスがあり、外気浴が楽しめるようになっている。壁には外出時の利用者の写真や漢字一文字で表現した今年の夢が飾られ、見やすくすっきりとした展示になっている。玄関から靴脱ぎ場の壁には観葉植物や小枝を使ったアレンジ作品が飾られ、白い壁と差し込む光が温かい雰囲気と清潔感を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで新聞や本を読んだり、談話室でテレビを観たり、穏やかに、仲良く過ごせるように、雰囲気作りをしている。夏期には、テラスが活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、寝具はご家族が用意してくださり、写真や思い出のものなど持ち込まれている。利用者に危険のないような配置を心掛けている。	本人が使い慣れた寝具や家具が持ち込まれ配置されている。それぞれの利用者の写真や思い出の品々が飾られ、落ち着ける場所になるように工夫されている。季節ごとの衣服はホームで一括し収納・整理されているので居室はすっきりとしており転倒等のリスクが少ない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札をつけ、トイレは大きな字で表示している。ポスター等も貼って注意したほうが良い事などお知らせしている。		